

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほしざらとよた1・ほしざらとよた2			
○保護者評価実施期間	2025年12月15日			2026年1月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	52	(回答者数)	37
○従業者評価実施期間	2025年12月15日			2025年12月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数)	13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月26日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用者の情報共有 ・利用者1人1人の個性を優先した支援を行っている。	・支援前、後にミーティングを実施。 共有ノートを作り、その日いない職員も情報が共有できるようになっている。 ・支援計画書に基づいて、児童の興味のある事や関心のあることを支援・活動に取り入れて行うよう心がけている。	・共有するだけでなく、どう支援していくかも共有し くかも具体的に検討し、具体的な内容を共有する。 ・職員間のミーティングなどを行い情報共有を密にしながら児童の特徴や特性に合わせた支援を行っていく。
2	・利用者の特性、現在おかれている環境や状況に合わせた活動の提供。	・お金の使い方の勉強 →買い物、外食、おでかけの際おこづかいをもたせてもらおこづかいの範囲でおみやげおやつを購入など。 ・パソコンやスマートの使い方 →タイピング練習、動画検索方法、文字入力練習、使うことについての危険性についての指導	家庭の金銭事情がそれであるということ把握し、保護者の負担にならない活動に配慮する必要がある。 事業所のPCを使うリスク、依存についての検討。
3	・利用者が安心し楽しく居れる居場所となっている。 ・相談や申し入れごとに対して、その都度対応している。	・ほしざらに到着してから、帰るまでの流れを視覚的にわかる ようにしている。自分自身で動けるよう工夫している。 ・子育て、発達に対する相談や利用に関する相談に対して面談や電話でのやりとりなど必要に応じて答えている。	・利用者1人1人の自立度が違うので、1人1人に合わせた支援や声掛けをしていく。 ・相談しづらい保護者様もいらっしゃると思うので、送迎時などにこどらから働きかけ、なるべくタイムリーに対応できる様にしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者交流、きょうだい同士の交流機会が少ない。	利用していることの年齢層があがっていることから、高学年の保護者は保護者同士で交流必要があるのかという意見がある。 兄弟も年齢があがっているため、参加したくない。 参加させたいと思わないという意見もある。	小学校高学年から高校生の保護者の方にも有益な活動の提案。
2	地域との交流	外出活動先で利用者を見失わないようするための意識。 人員の配置数。	外出活動時、利用者の特性を考えた人員配置や、支援するスタッフとの相性などを検討する時間を今までより長く設ける。 外出先の事前確認。（トイレ等、施設の間取りなど）
3	・事業所が老朽化してきている ・活動室などの部屋が狭く感じる	建物自体の老朽化が進んできている。 利用者が壁を叩いたり、物を壁にぶつけたり、壁紙を剥がしたりする。 利用者の年齢があがってきていため身体が大きくなっている。	その都度、修繕、視覚的に見えないようにする。 事業所の移転。リフォーム。